Come Home Story

ご入居後のお宅訪問

No.030

カムホームストーリー

四万十市・Oさま邸
竣工:2012年4月
設計担当:福井 美絵

「こんな家が建てれるがや! もうここしかない!」

四万十川からほど近い、のどかな住宅街に真っ白な外観を輝かすOさんのお住まい。赤茶の瓦屋根、塗り壁の外壁に黄色い玄関ドアが映える、かわいい外観です。奥さまは20歳でご結婚、今では中学校3年生と1年生になるお子さんと旦那さまの4人暮らしです。家を建てたのは、約3年5ヶ月前のこと。新築をした旦那さまの同僚から「家賃ぐらいで家が建つ」という話を聞き、家に興味がなかったOさまご夫妻も「子どもたちと新しい家で一緒に住める」と、心がぐっと傾きました。まずは家をと、四万十市の住宅展示場へ訪れましたが「どれもふつうで、同じような家でした」と奥さま。建てたい家のイメージが膨らんでいた奥さまは、新聞広告のk+で見つけたタイセイホームの見学会に行って「こんな家が建てれるがや!もうここしかない!」と直感したと言います。その後、お客さまサポーターの山本に何度も相談を重ね、資金面の土台を固めてからOさまの家づくりがスタートしました。

「もう一回最初からやりたいぐらい、すごく楽しかった」

お家の打合せは、「もう一回最初からやりたいぐらい、すごく楽しかった」と奥さま。四万十市と高知の往復時間も、あれこれ考えるにはちょうどいい有意義な時間に。内装のデザインを担当した奥さまは、大好きな「ちはるの家」を参考にしました。圧迫感を感じさせないように工夫したキッチンは、リビングとの間に壁をつくらず飾り棚で仕切り、中央にお気に入りのステンドガラスをはめ込んだデザイン。奥のパントリーには天井から壁全面にオレンジ色のかわいい柄クロスを貼り、トイレは全面グリーン一色で統一。小さな取っ手や家具の色使い、所どころに演出した「ちはるの家風」のデザインが、この家の個性です。キッチンの入口にある冷蔵庫の位置を奥にしておけば…と悩む一方で、「旦那はお酒がすぐに取れるからいいみたい(笑)」とやさしい笑顔を見せる奥さま。お子さんたちが大きくなるにつれ、だんだんとダイニングテーブルも狭く感じてきました。「住めば都って言うし、キッチンが一番好きですよ」と、好きなものに囲まれた暮らしが変わらずうれしい奥さまです。

間取りを担当した旦那さまは、友人を招くことが多いからと、リビング階段をやめて玄関からすぐのところに階段を配置。冷暖房の効きも考え、効果もバッチリです。また、お庭がある方にリビングの掃出し窓とキッチンの勝手口があるため、バーベキューをすることが多いOさま一家にとって切り分けた食材や飲み物もすぐに運べる動線。後片付けまでスムーズにこなすことができ大助かり。この夏も、たくさんの笑顔が集まるOさまのお宅です。

「大事なのは、どこに何をどれだけ収納するかをしっかりと考えること」

家事動線にこだわった奥さまは、洗濯したものをそのまま掃出し窓から外へ干せるようにし、取り込んだものを畳スペースでたたんですぐ横のクローゼットへしまえる動線を考えました。将来のことまで考え、「1階で全部できるように」という工夫です。

バイクや釣り、映画、バーベキューなど、たくさんの趣味をお持ちの旦那さま。そろえた道具も多く、リビングの片隅に置いてある状態に「専用の置き場所をつくっておけば良かった」と振り返る奥さま。しかし収納も、あればあるほど物が増えてしまう難点もあると言います。「大事なのは、どこに何をどれだけ収納するかをしっかりと考えること」とアドバイス。定まらずに決めてしまうと、そこに合う収納箱を探さないといけなくなるだけでなく、生活スペースまで限られてしまうと言います。これから家づくりを考えているご家族へ「見学会はたくさん見たほうがいい。雰囲気だけではなく、細かいところまで真剣に」と、アドバイスをいただきました。

家族やお客さまがよく集まるリビングと、玄関のみにしっくいの塗り壁を使ったOさまのお宅では、「夏場は外が暑くても、室内はひんやりしていて快適です」と、新築から3年5ヶ月が経った今でも効果を実感。梅雨時期のジメジメとした空気がなく、年中サラサラとした床にも旦那さまは思わず「素足でいると床が気持ちいい」と声に出すほどだとか。奥さまもまた、自然素材の家で良かったと実感できる瞬間だと話します。